

大きいねこと小さいねこ 福岡県

むかし、あるところに、大きいねこ小さいねこがいました。

ある日のこと、二匹のねこは、さんぽに出かけて、道で、おむすびをひろいました。大きいねこは、小さいおむすび、小さいねこは大きいおむすびでした。大きいねこは、

「きみはからだが小さいんだから、小さいおむすびでいいだろう。その大きいのをおれにくないか」といいました。小さいねこは、

「いやだよ。きみはもう大きいんだから、小さいのでいいだろう。おれはこれから大きくならないといけないから、大きいのを食べるよ」といいました。そして、にひきは、けんかを始めました。いつまでたつてもちがありません。

そこで、にひきは、さるさんの所へ行つて、どうしたらいいかたずねました。

さるさんは、話を聞くと、

「ふたりとも、同じだけ食べればいいんだよ。おれが、同じにしてあげよう」といつて、大きいおにぎりをひと口かじりました。すると、小さいおにぎりのほうが大きくなつてしまいました。

「あれ、かじりすぎたな。じゃあ、小さいほうもかじつてあげるよ」といつて、こんどは小さいほうをかじりました。すると、こんどは、大きいほうが大きくなつてしまいました。こうして、ひと口かじり、ひと口かじりしているうちに、さるさんは、おむすびをふたつとも食べてしまいました。

にひきのねこは、泣く泣く帰つて行つたということです。

おしまい

村上郁再話

資料『福岡昔話集』福岡県教育委員会／岩崎美術社